

平成30年度事業報告書

一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

当連盟は、平成25年4月1日付にて「非営利型の一般社団法人」への移行認可を得て新法人として発足、定款第5条に規定される諸事業を実施した結果、3年間で「公益目的支出計画の実施を完了して、平成28年12月12日付にて「公益目的支出計画の実施完了の確認書」を内閣府より受領しました。

昨年度からは、内閣府への公益目的支出計画書の提出や実施報告書の提出義務はなくなりましたが、当連盟の事業の継続として、定款第5条に規定される各事業を前年度と同様に計画して実施しました。

(事業活動)

事業1. ジュニアヨットクラブの普及活動と競技会開催に関する事業

(定款第5条 第1項 第3号及び第7号)

1. 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2018 (別府大会)

8月3日(金)～5日(日)、大分県別府北浜ヨットハーバーを会場に、大分県セーリング連盟とB&G別府海洋クラブとの共同主催にて開催しました。

本年も独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成を受け、地元大分県を含めた多数の企業からのプログラム広告料の支援を頂きました。

アサヒ飲料株式会社からの協賛を頂き、競技会期間中の飲物を提供出来ました。

ニュージーランド、オーストラリア、香港、韓国の海外4カ国から選手12名、指導者・保護者11名の計23名を招聘しました。

これにより、国内12クラブ、海外4チームの86名(OP級初級者18名、OP級上級者31名、レーザー4.7 9名、国際420級5艇、FJ級9艇)の選手に、指導者・保護者60名、運営役員50名の合計200名を超える規模となりました。

3年前の競技会から、シーマンシップに溢れた選手、指導者、クラブを表彰する「小澤吉太郎特別賞」を設けましたが、本年度は個人としては沖縄県から参加の宜野湾はごろも海洋少年団の赤嶺一彰君と平良海咲さんに加えて神奈川県から17名の選手と29名の指導者・保護者他で合計46名のチーム編成で統率の取れた行動によって大会を盛り上げてくれた葉山町セーリング協会に授与されました。

国内クラブ対抗レースの上位3クラブには海外セーリング研修派遣資格各1名授与(渡航費援助)のJJYU会長特別賞を設け、葉山町セーリング協会、B&G別府海洋クラブ、B&G高松海洋クラブに授与されました。

2. 第28回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ (ミキハウス杯 東京2018)

9月9日(日)、東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所を会場に、三起商行株式会社(ミキハウス)の特別協賛と大塚製薬株式会社の協賛を頂き、東京都ヨット連盟との共催で開催しました。

参加艇数は、OP級初級者19艇、OP級上級者30艇、レーザー4.7が4艇の合計53艇でした。クラブの指導者・保護者68名に運営役員その他65名に加え、江東区のケイ・インターナショナルスクールの外国人の子供や保護者3家族6名の体験試乗へ参加があり、総勢192名程となり賑やかな、国際色豊かな大会となりました。

海外セーリング研修派遣資格授与のクラブ対抗レースは葉山町セーリング協会が優勝し、会長特別賞が授与されました。

後援を頂いている公益財団法人日本セーリング連盟から直前の9月7日に「台風21号と北海道胆振東部地震支援募金のお願い」が連盟事務局に届いたので、急遽募金箱を設置して、レガッタ参加の皆さんに募金をお願いして、集まった募金を公益財団法人日本セーリング連盟事務局にお届けしました。

3. 第5回ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ（ミキハウス杯 大阪2018）

10月16日（日）、今年は大阪府ヨットセーリング連盟の協力を頂いて、大阪府貝塚市の二色ハーバーで、三起商行株式会社（ミキハウス）の特別協賛と大塚製薬株式会社、株式会社フォーチュンの協賛を頂いて開催しました。

ミキハウス様からは光川彰夫取締役社長室長とオリンピック選手の須長由季さんにご挨拶と表彰のお手伝いをしていただきました。

地元の大阪をはじめ、和歌山、兵庫、香川より選手34名の参加があり、OP級上級者クラス15艇、OP級初級者クラス19艇の内訳となりました。

クラブ対抗レース優勝（海外セーリング研修への参加資格授与）は和歌山ジュニアヨットクラブとなりました。

4. 第6回ジュニアヨットクラブジャンボリー

ゴールデンウィークの5月3日（木・祝）～5日（土・祝）の2泊3日の日程で、茨城県行方市の鈴木周也市長はじめ市役所のご協力を頂いて、活動場所を霞ヶ浦ふれあいランドに、宿泊は茨城県立白浜少年自然の家を利用して、茨城県セーリング連盟との共催で開催しました。

5クラブの参加で選手22名（男性13名、女性9名）、指導者・保護者23名、幼児1名、役員・コーチ12名の総勢58名参加となりました。

海洋活動拠点と宿泊施設が離れていることで、保護者の皆様には従来に増してご協力を頂き無事終了出来ました。参加者皆さんで作りあげた活動となりました。

事業2. 諸外国との交流・親善に関する事業

（定款第5条 第1項 第4号）

1. 外国チームの招聘事業

毎年開催している「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会」に外国チームを招聘し、交流と親善を図っています。今年はニュージーランド、オーストラリア、香港、韓国の4カ国、選手12名、監督・コーチ・保護者11名の計23名を招聘しました。今回は大分県セーリング連盟のご手配で各国選手12名全員がホームステイでホストファミリー宅に2泊宿泊、各選手・父兄共にとっても楽しい体験ができた大変喜んでいました。

各国コーチ・父兄からは大分県セーリング連盟・B&G別府海洋クラブ・別府翔青高等学校ヨット部の方々からのサポート・おもてなしがとても素晴らしいものであったとの感想を頂きました。

2. 海外セーリング研修派遣事業

（1）8月開催の「国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2018（別府大会）」の国内クラブ対抗レースの上位3クラブに、渡航費の一部を援助して海外セーリング研修の派遣に参加する資格を授与する会長特別賞を本年度も設けました。

特別賞を授与されたクラブは第1位 葉山町セーリング協会、第2位 B & G別府海洋クラブ、第3位 B & G高松海洋クラブでした。

又、9月開催の「ミキハウスカップ東京2018」と10月開催の「ミキハウスカップ大阪2018」の優勝クラブにも海外セーリング研修参加資格を授与する特別賞を設けました。

本年度も、3大会の特別賞受賞クラブの選手を合同でニュージーランドのオークランドに派遣することとなり、平成31年2月5日（火）～12日（火）、佐藤公俊理事、小野澤理事、野村理事が引率して、選手の往復渡航費用を連盟で負担支援しました。

各クラブからの希望もあり、費用自己負担で各クラブ1名の追加参加を認めましたので、葉山町セーリング協会4名、B&G別府海洋クラブ2名、B&G高松海洋クラブ2名、和歌山ジュニアヨットクラブ2名の合計10名となりました。

クラブの保護者も3名参加しました。

本年度は、「公益財団法人業務スーパージャパンドリーム財団」の補助金を頂く事が出来て、財政的に助かりました。

- (2) 毎年国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会に招聘しているオーストラリアのロイヤルパースヨットクラブから、平成31年2月2日（土）～3日（日）西豪州パースで同クラブが主催する「Royal Perth Yacht Club Dinghy Mini Series 2019」への招待状が来たので、友好関係継続のためにも参加するべく、自費参加での参加希望選手を募集したところ、B&G高松海洋クラブ3名、葉山町セーリング協会2名、江東区立小中学校セーリング部1名の6名の日本チームが結成されて、各クラブの保護者も3名参加して頂く事になりました。
- 当連盟もチーム結成の責任上から、ニュージーランドでの海外セーリング研修の前に小野澤理事が引率、同行して、平成31年1月30日（水）～2月6日（水）の日程で実施しました。

事業3. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(定款第5条 第1項 第1号、第2号及び第5号)

1. ジュニアヨットクラブの指導者の養成に関する事業

(1) 管理運営及び安全確保に関する指導事業

平成30年6月16日（土）開催の平成30年度定時総会終了後の午後に指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。

又、平成30年8月3日（金）～5日（日）大分県別府北浜ヨットハーバーで開催の日本ジュニアヨットクラブ競技会2018の開会式後に、選手、指導者、運営役員を集めて、丸山晴久理事（医事委員長）による熱中症対策その他の安全講習会を開催しました。

競技会中日の4日（土）に指導者研修会を安井清副会長の講師で開催しました。平成31年1月26日（土）開催の平成31年1月度理事会（平成30年度第三回理事会）の終了後の午後に、指導者研修会を開催して、ジュニアヨットクラブの管理運営及び安全確保に関する指導をしました。

(2) 指導者の養成事業

連盟の公認指導員制度に従って、各クラブから新規公認申請の募集を行うと共に、4年毎の更新認定の募集を毎年行っています。

平成29年2月18日付けにて改訂発効した「ジュニアヨットクラブの公認指導員認定に関する細則」に従い、平成30年8月4日（土）、日本ジュニアヨットクラブ競技会2018の期間中に大分県別府北浜ヨットハーバー研修室で指導者研修

会を開催し、競技会参加の指導者、保護者で受講した3名の方を新たに公認指導員に認定しました。

- (3) 管理運営及び安全確保に関する調査研究事業
本年度は特に調査研究する事業がありませんでした

事業4. 広報誌「ユースセーリング」の発行事業
(定款第5条 第1項 第6号)

広報誌「ユースセーリング」発行事業

ジュニアヨットクラブに関する広報活動の内、ホームページによる広報活動は連盟の通常活動として実施しており、従来よりも充実して来ています。

広報誌「ユースセーリング」の発行事業も本年度は平成30年12月に、第87号を発行することが出来ました。

今後は毎年10月発行を目標に努力して行きます。

その他の通常活動として、希望する事前登録メンバー(正会員、特別会員、登録クラブの指導者、保護者、ジュニアセーラー他セーリング界関係者)に「JJYU通信」をE-mailやファクスで発信していますが、本年度は「通信 17~22」を発信しました。

(会員、クラブの状況その他)

- (1) クラブの代表者である正会員は平成31年3月31日現在29名、学識経験者である正会員は23名で正会員の合計は52名です。
- (2) 登録クラブ数は平成30年3月31日現在29です。
- (3) 特別会員は、昨年度と同じアサヒホールディングス株式会社、株式会社ライフサイエンス研究所、株式会社三洋物産、株式会社三洋販売の4企業に新たに隅田倉庫株式会社が加わり5企業となりました。
(平成31年3月31日現在)

(4) 連盟会長表彰

当連盟の定款に定める目的及び事業に照らし、その業績が顕著な者或いはジュニアヨットクラブ等の団体を連盟会長名をもって行う表彰制度を、平成28年度から発足しました。

平成30年度の表彰者について2回の表彰委員会で審議の結果を、平成30年5月16日開催の平成30年度第一回度理事会に諮り、下記3名が決定しました。表彰式(表彰状、記念品の授与)は、平成30年6月16日(土)開催の平成30年度定時総会終了後に東京都中央区晴海の鴻星海鮮酒家に於いて行いました。

記

岩崎清彦氏(歳 大阪府ヨットセーリング連盟会長)

橋本久夫氏(歳 みやこジュニアセーリングクラブ代表者)

岩井一樹氏(歳 三重県ヨット連盟ジュニア・ユースヨットクラブ指導者)

尚、公益財団法人日本セーリング連盟の平成30年度定期表彰については、当連盟より推薦した小野澤秀典氏(当連盟理事、B&G高松海洋クラブ代表者)が優秀指導者賞を授与され、平成31年1月26日(土)、東京夢の島マリーナに於いて表彰式が行われました。

以上